

# 六七日

むなぬか

「戒名<sup>かいなま</sup>」と呼ばれることもありますが、浄土真宗では「法名<sup>ほうみょう</sup>」とい  
います。

戒名とは、数多くの厳しい戒律<sup>かいりつ</sup>を守って仏門に入ったものに与えら  
れる名前です。たとえば在家者<sup>さいけしや</sup>の五戒<sup>ごかい</sup>——殺生<sup>せつしよう</sup>しない・盗み<sup>ぬす</sup>をしない  
・不正な性行為をしない・嘘をつかない・お酒を飲まない——の五つ  
の戒律です。これが出家者になると男性で二百五十戒、女性で三百四

## 法名と位牌

十八戒にもほります。在家者の五戒す  
ら満足に守ることのできない私たち凡夫<sup>ぼんぷ</sup>  
は、ひたすら阿弥陀如来の救いを信じ、  
お念仏をとなえることでお浄土に救われ、  
仏さまと等しいさとりを得るのだと、阿  
弥陀如来の信心を説かれたのが親鸞聖人  
でした。ですから、浄土真宗では戒名といわず、法名と呼んでいます。  
法名に「釈」とあるのは、仏弟子の一人としてお釈迦さまのお仲間  
に加えていただくということであらわしています。

なお、浄土真宗では四十九日の間の白木の位牌<sup>いはい</sup>のみ慣習上、用るこ  
ともありますが、その後、他宗のようにうるし塗りの位牌は用いませ  
ん。亡き人の法名や俗名、死亡年月日などは過去帳<sup>かこぢょう</sup>に記載し、命日や年回  
にあたる日に、過去帳の故人の頁を開けてお仏壇に安置しています。

